

8、大航海時代 p,78~87

ポルトガル・スペインが (1) を求めて、イタリアとムスリムの商人が牛耳る。

地中海交易以外の新航路を探す⇒ (2) 時代 (15~17C) (ポルトガル)

(3) : (4) (アフリカ南端) に達する (1488)。インドの (5) に到着 (1498)。

ポルトガル人は、(6)、(7)、中国の (8) などに進出。(9) に漂着 (1543)。

(10) に漂着(1500) (スペイン)

(11) : 大西洋を横断し、西インド諸島のサンサルバドル島に到達。(1492)。

(12) : 世界一周を行うがフィリピンで戦死。部下が故国に戻る (1522)

(13) : が (14) 王国を、(15) が (16) 帝国を滅ぼす。

疫病と (17) などの鉱山やサトウキビなどの (18) での酷使のために先住民の数が激減→労働力確保のためアフリカから (19) を連行。※修道院の布教活動でカトリックが広まる。

(20) は先住民酷使を批判。

スペイン : (21) 家の (22) のもと、16C 後半が全盛期。

(イギリス)

(23) : スペインの (24) を破り (1588)、(25) を設立 (1600)。

(26) 革命 (1641~49) : (27) (ピューリタン=カルヴァン派) の (28) が勝利して (29) を処刑し、(30) を実現。(31) (1660) → (32) 革命 (1688~89) : カトリックの国王を追放し、オランダから (33) と (34) 夫妻を招き、「(35)」を定める。
議会の優位が確立し、18C 初めに責任内閣制も成立⇒ (36) を実現。

フランスの (37) (「太陽王」)、17C 前半~ (38) の典型、(39) 建設。

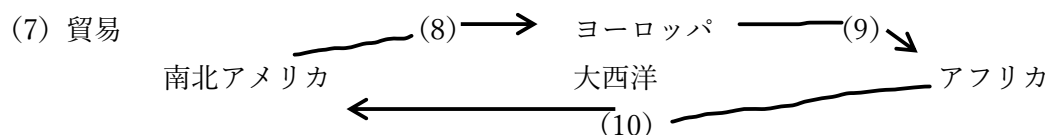
ロシアの (40)、(41) 朝 : 17C 末~西欧化を進め、大国になる。

10、アメリカの独立 p.86~99

プロイセンの (1) } 18C 中ごろ~ (3)
オーストリアの (2) (ハプスブルク家) } ※末娘が (4)

1992 ロシアの (5) がプロイセン・オーストリアとともに第 1 回 (6) →ポーランドの滅亡。

イギリス人の入植 : 北アメリカの大西洋岸 } 両社の植民地争奪戦
フランス人の入植 : カナダ・ルイジアナ } でイギリスが優位になる。



北アメリカの13植民地日本国イギリスが次々と課税→植民地側は「代表なくして課税なし」を標語にして反対→(11) 事件(1773)→(12) (1774)→(13) 戦争(1775~83)→(14) 宣言(1776、7/4)((15)らが起草)。イギリスよりの人々はカナダへ。
フランス・スペインが植民地軍側に参戦。(16)で(17)の独立を承認(1783)→(18)憲法の制定(1787)(人民主権・連邦主義・三権分立をうたう)。※初代大統領は(19)。

12 (11)、産業革命 p.106~113

1804 ラテンアメリカ初(1)の(2)の成立。

ラテンアメリカ諸国の独立：1825年までにほとんどの植民地で達成。

(3)など(4)(現地生まれの白人大地主)が独立運動の中心。

様々な人種が混血し、複雑な社会が形成される。※(5)宣言(1823)：時の合衆国大統領がヨーロッパとアメリカ大陸の相互不干渉を唱える→合衆国がアメリカ大陸の指導者に。

イギリス(6)(18C~)：今日の工業社会の出発点。

生産力の革新に伴う社会の根本的な変化。(7)が改良した(8)の実用化((9)がエネルギー源)など。綿工業の技術開発から始まる。(10)が(11)を実用化→(12)―(13)間の(14)開通(1830)※アメリカ人(15)が(16)を実用化(1807) 17Cのイギリス：経済が大きく成長「(17)」として利益が集積→(18)社会の確立。

工業都市に労働者があふれ、労働条件や衛生、治安の問題が発生。→1830年代~一連の(19)の制定(9歳未満の児童労働の禁止など)。

(20)(1832)→男子普通選挙法を求める。(21)運動が活発化。

(22)思想：労働者の貧困がなくなる資本主義を克服する道を探求。

※(23)村：工場で社会主義改革。

社会主義者の(24)と(25)が「(26)」を発表。(1848)→ロンドンに亡命後「(27)」を刊行(1867)、(28)(国際労働者協会)を結成し、労働者、社会主義者の国際的協力を促す。

11 (12)、フランス革命 p.100~105

フランス革命(1789~99)

18Cのフランスは(1)：①第一身分(聖職者)②第二身分(平民、農民が大半、(2)が台頭)

※革命の要因：第一に財政悪化、啓蒙思想やアメリカの独立の影響もある。

(3)の招集→第三身分が(4)を結成→パリの民衆が(5)を襲撃し、武器を奪う。(1789、7/14)→国会議会在(6)の廃止、(7)宣言(人間の自由と平等、人民主権をうたう)の発布(1789、8)、国王一家の逃亡事件(1791)→(8)の成立(1791~92)。

(9)(男子普通選挙により成立)(1792~95)が王政廃止と共和政を宣言。

→ (10) (1792～1804) → (11) とマリ=アントワネットの処刑 (1793) → (12) の結成
→ (13) 派による (14) (1793, 6～) → (15) ((16) らの処刑 (1794, 7))
→ (17) (1795～99) : 不安定

フランスの第一帝政 (1804～14, 1815)

コルシカ出身の (18) により、(19) (1799) → (20) (1799～1804) → 皇帝として即位
(21)、フランス銀行を設立。(22) を制定。

戦歴：イタリア遠征 (1796～97)、エジプト遠征 (1798～99)、
(23) でイギリス海軍に敗北。

(24) でロシア・オーストリア軍に勝利 (1805) → スペインやオーストリアに侵入。
→ (25) に失敗 (1812) → 退位し、エルバ島へ (1814) → 王政復古。

(26) (1814～15) : 列強が参加し、フランス革命以前の王朝と身分制度を取り戻し、勢力
均衡を図る → 復古的で反動的な (27) 体制 (1815～48)

※会議中にナポレオンが「(28)」 → (29) に敗北し、セントヘレナ島へ (1815)。